

## 足利市の地域経済活性化を目指して

開倫塾  
塾長 林 明夫

### 1. はじめに—高い志をもって足利市の地域経済活性化を—

- (1) 自分の生活・自分の企業・足利市など自らの生存や利益だけを考えたのでは、国内・国外との企業間競争に勝ち利益をあげるどころか、生存することすらできない。
- (2) マーケティングの 4P とそれぞれの顧客にとっての意味とは何か。
  - ① Product (製品・サービス) …顧客の問題解決 (Solution)
  - ② Price (価格) …顧客の負担 (Cost)
  - ③ Place (立地・流通) …顧客の利便性 (Convenience)
  - ④ Promotion (販促・広報) …顧客とのコミュニケーション (Communication)
- (3) 自らの仕事・企業・地域は、顧客の問題・課題解決に直結しなければならない。お客様のお役に立つことで社会のお役に立たなければ、お客様は得られない。企業・地域は存立しない。
- (4) 仕事には競合相手が必ず存在する。グローバル社会では、競争相手は日本だけではなく海外にも存在する。また、為替の変動で企業の国際競争力は大きく変化する。
- (5) 日本だけではなく世界の抱える課題解決にお役に立つ製品・サービスを提供する企業や地域を目指すという高い志をもって仕事に励み、足利市の経済活性化を目指したい。
- (6) 具体的には、日本及び世界の課題解決にお役に立つ世界最高水準の製品・サービスを提供する、つまり、国際競争力のある企業や地域を目指すことで、自らの企業・地域の生存を図りたい。

### 2. 足利市のすべての企業・地域は日本や世界の課題解決にお役に立つ世界最高水準の製品・サービスの提供を目指そう

- (1) 実例その 1 「足利 5S 学校」の改善活動
  - \* 世界で最も熱心な 5S 活動への取り組み
- (2) 実例その 2 「日産自動車栃木工場」
  - \* 世界各地からの最先端の自動車生産技術を求める研究生が集まる
- (3) 実例その 3 「マニー株式会社(手術用縫合針製造)」
  - \* 「世界最高品質の製品を世界のすみずみに」…宇都宮、ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン

### 3. 足利市は地域主権型道州制導入後の北関東州の州都を目指すべき

- (1) まずは、栃木県(人口 200 万人)、群馬県(200 万人)、茨城県(300 万人)、長野県(200 万人)の北関東州として連携・統合が語られる 4 県の研究(「北関東研究」)を。
- (2) とりあえずは、自分に関係する 1 つ 1 つの分野での北関東 4 県の連携を強力で押し進める。
- (3) そのためには、自らの企業のよさ・強みを徹底的に磨き込み、北関東 4 県の中で「いぶし銀」のような存在になること。
- (4) 同時に、世界の課題解決のためにどのようにお役に立てるかを考える。
- (5) 足利市のよさ・強みを徹底的に磨き込み、北関東州の州都に値するだけの価値を高める。世界の課題解決にお役に立つ取り組みを、足利市として積極的に行う。世界の人々を引き寄せるソフトパワーをもつ足利市を目指す。そのためには、足利市民は自分の活動領域を明確に決め、北関東州として語られる 4 県でも積極的に活動すること。世界各地で積極的に活動すること。

### 4. おわりに—誰に遠慮することなく、自分の、自らの企業の、そして足利市のよさ・強みを徹底的に磨き込み、日本や世界の課題解決に役立とう—

- (1) 「論語」と「貞観政要」の足利学校
- (2) 「5S クラスタ(産業集積)」
- (3) 英語教育日本一の足利づくり—足利市の第二公用語を英語に—

以上

— 2013 年 2 月 22 日記 —